Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization
新産業創出のための総合的支援情報誌「イシコ」

ISICO

あなたのビジネスをインターネット上でサポート
DGnet URL ● http://www.isico.or.jp
Vol 22 2004 WINTER

●サイエンスパーク発の最新情報
ISP REPORT
(株)米沢ビルシステムサービス

●産学官連携の最前線
トライアングル
ほくりく先端複合材研究会

●ビジネス・フロンティアに進路を取れ！
BUSINESS FRONTIER
サンコー企画(株)

●創造的企業ルポ
21世紀のチャレンジ
サイバーステーション(株)／輪島・キリモト

イシコ・トピックス
WHAT'S NEW
FINANCE
インフォメーション・テーブル

アースエンジニアリングが開発した発泡セラミックス板。透水性、保水性に優れ、約3mmの土を敷くだけで芝が育つ。セラミックスの気泡の中にも根がしっかり付いている様子が分かる。詳しくは巻頭特集をご覧ください。

巻頭特集 | 循環型社会は大きな宝の山！

ビジネス戦線に躍り出た“環境革命”の新旗手たち

巻頭特集●循環型社会は大きな宝の山！

ビジネス戦線に躍り出た“環境革命”の新旗手たち

1960年代以降、大きな社会問題となった公害を克服してきた産業界が、
地球規模で深刻化する環境問題を前に、再び転換期を迎えている。
環境への負荷の軽減や自然との共生を後押しするイノベーションは、
産業革命やIT革命になぞらえて「環境革命」とも呼ばれ、
そこには新たなビジネスチャンスが眠っている。
資源の有効活用やリサイクルの高度化など、
石川県内にも進化を遂げる環境ビジネスに挑む企業の姿がある。

会宝産業が世界47カ国に輸出している中古部品の中でも最もニーズが高いのはエンジンだ。

中古部品の輸出が好調 カーシートの リメイクも本格化

自動車を単にスクラップするのではなく、中古部品を製品として再生し、躍進しているのが会宝産業(金沢市)だ。

同社の売り上げの65%を占めるのが、エンジンをはじめ中古部品の輸出である。輸出スタートから約15年。国内では売れない中古部品も海外のバイヤーから見れば宝の山とあって、取引先は47カ国にまで増えた。近藤典彦社長は「日本なら10万km走れば廃車だが、海外では30万km走っても現役。日本は車検制度がある上、道路もきれいに整備されており、車を大切にする国民性もあって中古部品の状態は良く、海外から見れば十分に価値がある」と好調の要因を解説する。

また、ウレタンや繊維、金属、プラスチックなどが組み合わせられリサイクルが難しいカーシートは、クリーニングの後、キャスターを付けるなど手を加え、事務用のイスとして販売している。「人間工学に基づいて設計されているので、長時間座っていても疲れにくい」(近藤社長)のが特徴で、昨年9月に販売を開始してから約100脚が売れている。今年12月からはインターネットを使った通販もスタートさせ、さらに多くのニーズを掘り起こす。

昨年9月からは、全国の同業者に呼びかけて「地球環境をきれいにするために、競争ではなく協調を」という理念のもと、RUM(Re-Used Motorization)アライアンスを立ち上げた。

廃車をできるだけ資源に変えることを目指すリサイクル業者が、お互いに技術と情報を提供しあうことで、さらに大きな自動車リサイクルネットワークを作ることを目的とし、現在27社が加盟している。例えば、会宝産業では、これまで培ってきたノウハウや海外のバイヤーとのネットワークを生かし、アライアンス先の中古部品を輸出している。同社にとってはより多くの部品を供給できることになり、提携先にとっては面倒な輸出業務を行わなくて済むメリットがある。

RUMアライアンスでは、来年3月に開幕する「愛・地球博」(愛知万博)

近藤典彦
代表取締役社長

file1

カーシートをリメイクしたイスは15,000円〜。写真は、シートの生地を張り替えたもの。

会宝産業(株) 金沢市東蚊爪町1丁目25番地 TEL 076-237-5133 http://www.kaiho.co.jp

にも出展し、廃車リサイクルの実演などを行い、自動車を通した環境事業を全国に発信する。近藤社長は、「ISICOには、ビジネスプランの発表の場をいただいたり、企業や大学との人脈づくりでお世話になっている。これからも地域の産学官とタイアップし、リサイクル技術の開発と地域密着循環型社会の構築に取り組みたい」と意欲を燃やしている。

焼却熱を電気に変える サーマルリサイクルに本格参入

「産廃処理業者はいずれ、電力会社になるかもしれませんよ」。そう話すのは、焼却炉など、産廃処理プラントを製造するアクトリー(松任市)の水越裕治社長だ。同社は今年12月、栃木県にごみを焼却した際、発生する熱を利用して発電するサーマルリサイクルシステムを組み込んだ次世代焼却炉の研究拠点「R&Dセンター」を開設した。

栃木県に拠点を設けたのは、初期投資を抑えるため、もともと産廃処理業者が所有していた用地と工場を競売で落札したからである。今後、産廃処理業の免許を取得し、自社設備で廃棄物を処理しながら、次世代焼却炉の稼働状況を検証していく。

産廃処理そのものでも年間20億円の売り上げを見込んでおり、利益を確保しながら開発を進める新たなビジネスモデルとしても注目される。

もっとも、サーマルリサイクルは、同業他社もしのぎを削る分野である。そこで同社では、県工業試験場、独立行政法人産業技術総合研究所と共同で、熱エネルギーを直接、電気エネルギーに変換する機能を持つ熱電素子を使ったシステムの開発に取り組んでいる。この方法ならば、蒸気を起こして発電用タービンを回すという従来の方法に比べて、2〜3倍も発電効率がアップするという。

熱電素子の利用については、水越社長が今春、県工業試験場で開かれたセミナーに出席したのがきっかけとなった。「私たちのような中小企業が大企業とまともに渡り合うには産学連携しかない」と水越社長は言い切り、情報収集の窓口として、各大学やセミナーの情報が集まっているISICOをよく利用する。

アクトリーは、有害物質を出さずに産廃を焼く焼却炉で高い評価を得ており、現在トップシェアを誇る。しかし、業界には、日立造船（株）や三菱重工業（株）、石川島播磨重工業（株）など大手企業の参入が相次いでおり、今後はさらなる競争激化が予想されている。水越社長は「専業メーカーとして30年間積み重ねてきたノウハウがある。たとえ性能が同じでも価格や納期で大手の追随は許さない」(水越社長)と自信を見せる

水越裕治 代表取締役社長

file2

上／アクトリー内にある実験用の焼成炉。熱を加えて有害物質を無害化する。

左／社内にある技術開発センターには、測定装置がずらりと並び、焼却時に重金属やVOC(揮発性有機化合物)が発生しないかチェックする。

(株)アクトリー 松任市水澄町375番地　TEL 076-277-3380

file3

左／気泡の大きさや形は用途に応じて変えることができる。

下／焼成炉内で1050℃で発泡中の板材(1m×1m)。

大西和弥 代表取締役社長

(株)アースエンジニアリング 金沢市鞍月2丁目2番地(石川県繊維会館 3F)TEL 076-268-6424 **http://www.earth-eec.co.jp/**

一方、サーマルリサイクルシステムの開発によって、さらに差別化を図る考えだ。

焼却灰やスラグが緑化基盤材に変身 既存品の1/2のコストで施工可能

古紙やプラスチック、木くずなどの廃棄物を固形燃料化する装置を製造してきたアースエンジニアリング(金沢市)では、スポンジのように多くの気孔を持つ発泡セラミックスを開発、製品化した。今年10月に、1億2000万円かけて能登中核工業団地内にある工場を増設し、量産および製品開発体制を整えた。

同社では、固形燃料を燃やした後に残る灰を再利用できれば資源の循環がさらに進むと考え、3年前から開発を進めてきた。これまでは埋めるか、ごく限られた用途にしか使用できなかった灰や鋳鉄スラグを再利用。透水性や保水性、断熱性に優れ、緑化基盤材や水質浄化材、内装材などに幅広く利用できる。

昨年9月からはISICO が東京都千代田区内にオープンした「石川県ビジネスサポートセンター」に営業拠点を構えた。首都圏での販売ルート確立のノウハウを持った村上公彦アドバイザーの協力も得ながら販促活動を展開している。せっかくリサイクル製品を開発しても、価格面で折り合わず、市場に受け入れられないケースも多いが、同社の製品は、例えば緑化基盤材として使用する場合、既存製品の約1/2のコストで済むとあって、順調に採用実績を伸ばしている。今後、2年間で2～3億円の売り上げを見込んでいる。

また、現在は中小企業創造活動促進法の認定を受け、研究成果活用プラザ石川と共同で、発泡セラミックスの原料に能登特産の珪藻土を練り込んだ新製品の開発に取り組んでおり、2006年2月の製品化を予定している。

珪藻土を混合することで、発泡セラミックスの気孔の周りをさらに珪藻土そのものが持つ気孔が取り巻く構造となっている。大西和弥社長は「吸放湿性や耐火断熱性がアップするので、建材として売り込みたい」と販売戦略を練っている。

逆風バネに 環境分野へ進出 バイオマス燃料で ガス供給へ

集塵装置や廃水処理装置など、農業施設用の設備を手がけてきた明和工業(金沢市)が環境設備の開発に乗り出したのは1999年のことであ

る。「農業関連機器も環境に配慮した製品だが、どちらかと言えば対症療法的。もっと踏み込んだリサイクルをやってみたい」という北野滋社長の思いに加え、減反政策が強化された影響で、農業施設向けの売り上げがピーク時の1/3に落ち込んでいたことも大きな理由だった。

まず、開発したのはもみ殻の膨張軟化装置である。これといった使い道もなく、農業施設で廃棄処分されていたもみ殻を高温高圧処理して吸水性を高め、堆肥の原料や土壌改良材として再生した。

続いて2002年には、もみ殻の炭化装置を開発。製造された炭化物は、土壌改良材や融雪材として利用できる。もみ殻以外にも野菜や果物の残渣(ざんさ)、家畜の糞尿、下水汚泥など、さまざまな原料を炭化できるのが同社の強みであり、ISICOが持つ各都道府県にあるベンチャー支援組織とのネットワークも利用しながら、国内はもとより中国やタイ、台湾など20を超える導入実績を残してきた。

さらに、今年11月には、バイオマス燃料をガス化するプラントを開発した。遼寧省の鞍山市に100%出資の現地法人「鞍山明和環保科技有限公司」を設立。中国の農村部に、初めて燃料用のガスを供給することに成功した。

バイオマスとは、石油や石炭など、いずれ枯渇する化石燃料に対して、家畜の糞尿や生ごみ、稲わら、間伐材といった生物由来資源から得られるエネルギーのこと。もみ殻やトウモロコシの茎など、バイオマス燃料を500〜600℃で30〜40分、無酸素状態で蒸し焼きにしてガス化する。

北野社長は「中国東北部の農村では、いまだに石炭をエネルギー源とする場合も多い上、かつての日本のように薪を燃やすかまども一般的だ。化石燃料に比べて二酸化炭素の排出抑制に大きな効果があるバイオマスの利用を促進し、住みよい環境づくりに貢献したい」と話し、炭化プラントやガス化プラントの営業を強化していく考えだ。

＊　＊　＊

環境省が発表した平成16年版環境白書では、いわゆる環境ビジネスの市場規模は、2000年の29兆9000億円から、2020年には58兆4000億円になると推計している。

地球温暖化に代表される環境問題への対応は国際的な課題だ。これまでのように「経済の発展が環境に悪影響を与える」のではなく、「環境を良くすることが経済の発展につながり、企業の発展が環境を改善する」という経済と環境の新しい関係づくりは急務である。環境革命はまだ緒に就いたばかりであり、企業の技術革新や創意工夫はまだまだ続く。

file4

上／明和工業内にある炭化プラントの実験装置。
左／木くずから、炭と酢液がとれる。酢液も土壌改良などに有効だ。

北野滋 代表取締役社長

明和工業(株)　金沢市薬師堂町イ29番地　TEL 076-261-6468　http://www.meiwa-ind.co.jp/

ISP REPORT FILE.8

頭脳立県石川のシンボルとも言える「いしかわサイエンスパーク（ISP）」。パーク内に進出した企業や研究機関の取り組みをご紹介します。

(株)米沢ビルシステムサービス
〒923-1211 能美郡辰口町旭台2-13
サイエンスパーク内いしかわクリエイトラボ
TEL 0761-51-7582 FAX 0761-51-7583

美白や肌年齢の若返りに効果大 基礎化粧品を独自に開発

趣味を生かして開発スタート

ビル管理業務の米沢ビルシステムサービスでは、肌の若返りやアレルギー症状の改善などに効果がある基礎化粧品を独自に開発した。今年12月からは、別会社を設立し、ナイトクリームと化粧ジェルの販売をスタートさせた。マスコミに発表後、世界中から100件以上の問い合わせがあるなど話題を集めている。

開発のきっかけは10年前。竹田和則社長が趣味の川釣りで南アルプスを訪れた際、清流からくんだ水を家に持ち帰ったことだった。空のヨーグルト容器に移し替えて保存したところ、翌日になって、容器に付着していたヨーグルトが分解され、泡が発生。「持ち帰った水に菌が含まれているのでは」との推測から分析してみた結果、新種の乳酸菌（写真右上）を発見した。

そのころ、竹田社長はビルメンテナンス以外に軸となる新事業のアイデアを考えており、平成11年から研究を本格化させた。この乳酸菌と他の菌を混合したバイオ溶液が細胞を老化させる活性酸素の働きを抑制する作用があると判明。肌の若返りをはじめ、シミやシワが薄くなるなどの効果が期待されたため、基礎化粧品として商品化することにした。

竹田社長は、学生時代のアルバイトを通じて微生物に興味を持ち、30年以上趣味で研究を続けていた。本業とは全く異なる分野への進出とはいえ、それまでのノウハウの積み重ねが研究に役立った。

食品や医薬品への活用も

それまで、自社の給湯室を研究室にしていたが、平成13年9月からはISP内のいしかわクリエイトラボに入居。研究環境を整え、酵素の研究を専門とする北陸先端科学技術大学院大学の高木昌宏教授の指導を受け、菌と微生物の最適な配合を導き出した。また、入居から2年連続で経済産業省からの補助金を受け、開発を進めた。

この混合菌を加えて製造した化粧品は、女性モニターから「肌の吹き出物やシミがなくなった」「肌荒れがなくなり、色白になった」などの評判が寄せられ、中には肌年齢が30歳近く若返った人もいた。竹田社長は「天然素材100%の基礎化粧品」と胸を張り、「年配の方はもちろん、肌荒れがちな若い方にも使用してほしい」と期待を寄せる。

このほか、新発見した菌には、免疫機能を高める作用や抗がん作用などもあり、今後、医薬品メーカーなどと提携し、健康食品や医薬品などの商品化も進める。混合菌をさらに多く培養するため、来年の秋ごろをめどに工場建設を予定するなど、事業拡大をさらに加速させる考えだ。

シワ・シミの解消効果がある「煌（こう）」（左）は熟年女性向け。「姫の雫（しずく）」（下）は保湿性が高く、若い女性におすすめだ。

いしかわクリエイトラボ入居者募集

いしかわサイエンスパーク内のインキュベート施設・いしかわクリエイトラボでは、現在、入居企業を以下の通り募集しています。

■募集区画
・25㎡×1区画　・50㎡×5区画

■応募資格
(1)インキュベータ
●新分野への進出、技術開発など、創造的企業活動を行う中小企業
●独自の事務所・研究室が持てない小規模企業
●創業まもない中小企業、これから起業を目指す意欲ある方
(2)レンタル・ラボ
●研究開発に取り組むすべての企業

■利用料金
●賃貸料
【インキュベータ】
1㎡あたり2,000円／月
【レンタル・ラボ】
1㎡あたり3,000円／月
●共益費　1㎡あたり500円／月
●保証金　月額賃貸料の2カ月相当

■利用期間
原則3年以内
（必要な場合だけ2年延長可）

■入居者特典
●高速インターネット（100Mbps）常時接続無料
●24時間365日利用可能
●無料駐車場
●北陸先端科学技術大学院大学との共同研究の場合は、大学の設備も一部利用可能

【お問い合わせ】
(財)石川県産業創出支援機構 サイエンスパークオフィス
TEL 0761-51-0122

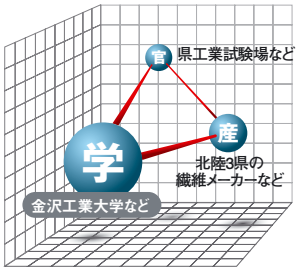
*県内では、産学官の連携によって
ニュービジネス創造を目指す動きが本格化しています。
ここでは、その実例に迫ります。*

ほくりく先端複合材研究会

北陸を先端複合材の一大先進地に。産学官連携プロジェクトが始動！

石川・富山・福井県では、北陸の特性を生かした新産業創出に力を入れている。
そして、その旗振り役となる「北陸ものづくり創生協議会」内に、
今年9月、第3の研究機関「ほくりく先端複合材(HACM)研究会」が発足。同研究会では、
先端複合材の産業化に向けた活動をスタートさせた。

今回の産学官連携ユニット



ほくりく先端複合材研究会

DATA
野々市町扇が丘7-1
金沢工業大学研究支援機構事務局内
TEL 076-294-6719

世界を視野に入れた商品開発が進む

北陸には古くから繊維メーカーが多く、炭素繊維をはじめ優れた繊維技術が根づいている。しかし、企画・マーケティング力で欧米に後れを取っており、国際競争力という点で苦戦が続いているのも現状だ。

ほくりく先端複合材研究会には、北陸3県から繊維メーカーを中心とした企業20社、金沢工業大学、石川県工業試験場などが参加。繊維や工業用プラスチックなどの技術を集積し、新たな複合材の開発と、その素材を組み込んだ多種多様な製品の実用化を図り、企業の国際競争力の強化を目指している。

現在、そのメーンプロジェクトの一つとなっているのが、内装材や内装部品を製造販売する（株）ビルドス（小松市）などが取り組

11月に開かれた「先端複合材フォーラム」で、研究会の本格的な活動がスタートした。

ビルドスなどが研究する3次元ハニカム構造。六角形の組み合わせが高い耐久性や耐火性を実現する。

ほくりく先端複合材研究会 製品化までの流れ

繊維メーカーが持つ編組技術と工業用プラスチックなどの成形技術を組み合わせた新たな複合材を開発し、多様な分野への進出を図る。金沢工業大学や県工業試験場などでは、これらのプロジェクトのR&D(研究開発)支援や、商品・素材の評価分析、マーケティングなどを担い、産業化に貢献する。

む3次元ハニカム構造材の開発だ。ハニカムとは、ハチの巣のように六角形が並んだ構造で、垂直方向の力に強く、軽量で耐熱性にも優れているという利点がある。研究会では、ハニカム構造の特徴を生かし、耐火性や強度、軽さが求められる航空機・鉄道車両などの壁材や床材への応用を探っており、最も適した複合材の開発と成形技術の確立を進めている。

このほかにも、研究会では、次世代カーとして注目される水素燃料電池自動車の超高圧燃料タンクの製造などを手がけている。「あらゆるビジネスでスピードは不可欠な要素だ。これらの研究についても、2、3年をめどに製品化に結び付けたい」と、同研究会会長の金原勲金沢工大教授は話し、北陸から世界をターゲットにした新たなビジネスの確立を急いでいる。

さらなるノウハウの向上とネットワークづくりを促進

また、複合材研究を通した各企業の一層の技術力アップとネットワーク形成も、研究会の大きな目的になっている。

11月には、その第1弾として、研究会の第1回総会と先端複合材フォーラムを金沢工業大学で開催した。フォーラムでは、複合材研究の最前線で活躍するスタンフォード大学名誉教授のスティーフン・ツァイ博士と米国ボーイング社のジョナサン・ゴス博士を招き、特別セミナーを実施。参加した研究会加盟企業は、2人の講演から複合材の現状と将来を探った。

さらに、フォーラムに続いて行われた交流会では、会場のいたるところで参加者たちの談笑する姿が見られ、業種や産学官の枠を越えた情報交換の場となった。

研究会では今後も、定期的に会員同士が交流できるセミナーを開催する予定で、地元企業にビジネスマッチングの舞台としても、活用してもらいたいと考えている。また、金原会長は、「複合材の最大のメリットである軽量化は、さまざまな分野の製品開発に利用できる。より多くの業種の方々に集まっていただき、いろいろなアイデアを聞かせてほしい」と、企業の積極的な参加を呼びかけており、この研究会から多岐にわたる分野の産業の芽を次々と育てていく構えだ。

「企業との連携で、実用的な研究に取り組めるのは、大学側としても大きなメリットになる」と、金原会長。

BUSINESS FRONTIER

ビジネス・フロンティアに進路を取れ!

ビジネスチャンスの拡大、逆境をバネにランクアップ･･･
さまざまな目的に向け、販路開拓に乗り出した企業の挑戦を紹介します。

クイックシートは、多様なデザインに対応可能。さらに、貼付タイプと溶融タイプがあるため、さまざまな路面に使用できる。

サンコー企画㈱

DATA
河北郡津幡町旭山11-2
TEL 076-289-6639
FAX 076-289-6637
http://www.sanko-kikaku.com

“貼るだけ”の路面標示シートで躍進

サンコー企画は、「止まれ」や「シルバーゾーン」といった路面に貼り付ける標示用の「クイックシート」で、躍進を見せている。シート式道路標示では国内シェア70%以上を誇り、現在、全国の交通安全施設業者約1000社と取引がある。

クイックシートの最大の魅力は、工場生産したシートを現場で圧着したり、バーナーであぶって溶融するだけで、簡単に道路に貼り付けることができる点だ。

路面にペンキで文字や図形を描く従来の方法に比べ、作業時間を3分の1以下に短縮。コストはやや高くなるものの、約1年で色が落ちてくるペンキの10倍以上の耐久性があるのも強みだ。「ランニングコストでは、クイックシートの方がリーズナブル」と、谷龍男社長も自信を見せる。

さらに、クイックシートはコンピューターで原図を作成しカッティングするため、サイズやデザインなど、あらゆる絵柄に対応可能なことも差別化できる点である。

同社がクイックシートを開発したのは10年前。それまでは道路関連の塗料などを扱っていたが、「路面標示を描くには時間がかかり、交通渋滞の原因にもなっている」との道路標示施工会社の声をヒントに路面に適したシートに独自のカッティング技術を取り入れ、1枚からでも供給できるクイックシートを主力とした販売に力を入れた。

谷社長は「小学校のアスファルトに絵を描くなど、道路以外にも需要が見込める」と話しており、同社では今後、新しい顧客獲得に積極的に乗り出していく考えだ。

Event News

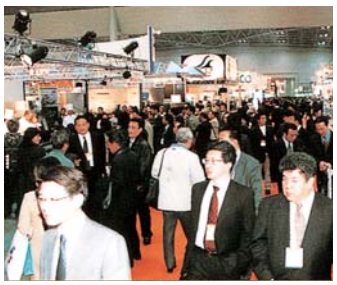
国際ホテル・レストラン・ショー

●開催日時
平成17年3月8日(火)～11日(金)
10:00～17:00
(最終日は16:30まで)

●会　場
東京ビッグサイト
(有明・東京国際展示場)
※詳細は、http://www.jma.or.jp/hcj/

ホテル・レストランへの販路開拓へ

ISICOでは、平成17年3月8日(火)から11日(金)、東京ビッグサイトで開催される「国際ホテル・レストラン・ショー」に石川県ブースを出展します。ブースでは、環境設備やインテリア用品などを扱う18社の県内中小企業の商品を紹介。全国から10万人近いホテル・レストラン関係者らが訪れるイベントを、ビジネスマッチングの場として活用していただきたいと考えています。



国際ホテル・レストラン・ショーは、今回で33回目を迎える歴史あるイベント。前回は9万4753人が訪れました。

CHALLENGE

21世紀のチャレンジ

ベンチャースピリットに触れる

産業構造の高度化、急速な技術革新が進む中にあって、企業にとってはビジネスチャンス獲得のために新たなチャレンジが求められています。その中で、独自の取り組みで工夫を見せ伸びゆく2社を紹介します。

ベンチャー

ネット技術の特許を取得し事業拡大へ

サイバーステーション(株)

■ 所在地　金沢市鞍月4丁目187番地
TEL076-267-2192
■ 代表者　福永　泰男
■ 設　立　平成12年5月
■ 資本金　1100万円
■ 社員数　18名
■ 事業内容
システム開発アウトソーシングサービス、インターネット情報発信支援サービス、ネットワークサービス、iDCネットワークサービス、ストリーミングサービス、ソフトウェアサービス、システムコンサルティング、ハードウェア・サプライ製品販売、代理店業務、監視カメラ販売サービス
●ホームページ http://www.cyberstation.co.jp/
●DRCTホームページ http://www.drct.jp/

システムインテグレータなどを手がけるサイバーステーションは、今年3月に「DRCT(ドメイン中継通信技術)」の特許を取得し、事業化に乗り出した。

「DRCT」は、接続先アドレスの末尾に中継するサーバを追記することで、さまざまな機能を付加できる技術。例えば、メールアドレスに翻訳用アドレスを追加すると、自動的に訳されたメールが送信される。パソコンはもちろん、携帯電話にも適用可能だ。

この技術は同社の村井将則副社長（写真左）が、別サイトを中継すれば、それまで携帯電話では保存できなかった閲覧サイト履歴を記録できることを発見したのが特許申請のきっかけとなった。「中継サーバの機能をそのままプラスできるので、自動的なファイル変換やウイルス駆除なども可能になる」（福永泰男社長、写真右）と用途の拡大が見込めることから、今年8月、本格的に事業として始動した。

まず狙うのは、携帯電話の市場。「DRCT」を利用すれば、複数のメールアドレスを持つだけでなく、メールを外国語や方言に変換することもできる。しかも、これらのサービスは携帯電話会社と契約するだけで誰でも使える。すでに大手通信企業から引き合いがあり、ライセンス契約し、メールサービスで5000億円といわれる携帯電話市場に参入していく考えだ。

新分野進出

東京の百貨店に直営店をオープン

輪島・キリモト(桐本木工所)

■ 所在地　輪島市杉平町成坪32
TEL0768-22-0842
■ 代表者　桐本　俊兵衛
■ 設　立　昭和4年
■ 従業員数　15名
■ 事業内容
漆器木地製造・販売、木製品・漆の器・家具・建築・内装材の企画・製造販売
●http://www.kirimoto.net/

輪島塗の木地などを製造する輪島・キリモトは今年10月、東京の三越日本橋本店に直営店をオープンした。今後、漆の器と小物の販売や家具のオーダーメードのほか、住宅や店舗に漆素材を使う企画の提案や相談などにも応じ、首都圏のニーズを発掘していく考えだ。

「木地作りや漆塗りなど、輪島の技術の素晴らしさをもっと広めたい」。桐本泰一代表補佐（写真）がそう考え始めたのは10年前のことだった。バブル崩壊後、減少していた売り上げに危機感を抱いた桐本代表補佐は、まず、従来のイメージにとらわれない独自の漆器をデザインし、同年代の職人たちと共同制作。個展などで発表し、評判を集めた。

平成12年には、輪島全体の活性化を狙い、わいち商店街に「ギャラリーわいち」を開設。メンバー9名の作品を常時販売するほか、異業種の作り手の企画展などを開催してきた。

幅広い取り組みが実を結び、三越の企画担当者から誘いを受け、直売店を出店。若年層の客もターゲットに木や漆職人の技術を広める。また、今年11月、首都圏で小売に携わるバイヤーに新商品をPRするISHI-BRAマーケットプレイスに、同世代の輪島の作り手と共同制作したインテリア関連商品を出品。桐本代表補佐は「昔は一般的だった手作りの技を、今の生活に溶け込ませていきたい」と意欲を見せている。

関東地区の企業に技術力をPR

石川県受注開拓懇談会

谷本知事が自らトップセールスを行い、石川の企業を売り込んだ。

石川県の産業を紹介すると同時に、受発注情報を交換する「石川県受注開拓懇談会」が11月4日(木)、東京都内で開かれ、県内企業が関東地区の企業にその技術力をPRした。

今回の懇談会では、関東地区の30社から33名の発注担当者が参加。石川県からは、ISICO理事長の谷本正憲知事をはじめ県関係者と県内企業63社74名が参加した。

懇談会では、谷本知事が「石川県にはニッチトップ企業が多く、高い技術力で新しい製品の提案ができ、新たな事業展開を検討する発注企業の幅広い技術ニーズに応えることができる」と県内企業の技術水準の高さをアピールした。また、「県内企業の旺盛なチャレンジ精神を実感していただき、この懇談会を通じて人間関係を構築し、ビジネスへとつなげてほしい」と呼びかけた。

当日は、関東地区の企業と県内企業との間で、名刺交換や自社PR、個別商談、訪問の約束、受発注に関する意見交換が活発に行われ、交流を深めた。

このほか、懇談会に先だって、(株)日立メディコ柏事業所(千葉県柏市／参加者29社34名)の見学会を開催し、5日（金）は、第22回日本国際工作機械見本市(東京ビッグサイト)を視察した。

首都圏で石川の底力をアピール

ISHI-BRAマーケットプレイス
いしかわベンチャーマーケットin東京

写真上首都圏の百貨店などのバイヤーに県内企業が自社製品をアピールした。
写真下ベンチャーマーケットでは自社の製品やサービスについてプレゼンテーションした。

石川発の商品を全国規模のマーケットへ―。県内企業による展示商談会が11月29日（月）、30日（火）の2日間、東京・赤坂プリンスホテルで開かれた。昨年に引き続き2度目の開催となった石川産品展示・商談会「ISHI-BRAマーケットプレイス」では今年新たに食品関連の企業を加え、昨年を上回る46社の企業が出展した。会場内のブースでは、出展企業がそれぞれの自社商品をアピール。訪れた開発担当者やバイヤーらが、次代のヒット商品を掘り出そうと熱心に各ブースを見て回った。

すでに石川の企業と商品開発を進めているという総合商社エトワール海渡の滝澤溥生取締役商品部長は、「『ジャパンブランド』を大切にしているので地方に注目しているが、直接産地を訪れることは現実的に難しい。石川の技術やデザインには興味を引くものが多く、こうした展示会はありがたい」と話し、発表会で佃煮を使用した洋菓子を提案した佃食品の直井武久常務は、「伝統の食品を使用して新しい商品を開発する姿勢に興味を持ってもらえたようだ」と、手ごたえを感じた様子だった。

29日（月）にはビジネスプラン発表会「いしかわベンチャーマーケットin東京」を開催し、視覚障害者らに向けた音声案内装置を開発したレハ・ヴィジョン(株)など5社が東京の企業関係者に向けて自社の製品・ビジネスプランについて各々30分のプレゼンテーションを行った。発表後は、参加者から商品の詳細についての質問が相次ぎ、会場は活気に包まれた。

ISICOでは、県内の中小・ベンチャー企業の活性化、
産学官連携の推進のため、さまざまな取り組みを行っています。
その様子をダイジェストでどうぞ！

急成長する韓国市場進出の可能性を探る

韓国・最新コンテンツセミナー

講義終了後には、参加者から熱心な質問が飛び交った。

ISICOとジェトロ金沢が主催する「韓国・最新コンテンツビジネスセミナー」が11月1日(月)、県地場産業振興センターで開催され、55名の参加者が韓国のIT産業の最新事情について理解を深めた。

セミナーでは、韓国ソフトウェア振興院iPark Tokyoでディビジョンディレクター(デジタルコンテンツ担当)を務める宋美憲(ソンミホン)氏が講演した。

その中で宋氏は「韓国のデジタル・コンテンツ産業の市場規模は2002年から2003年にかけて40%の成長率だった。中でもパソコンを使ったオンラインゲームのマーケットが最も大きく、次にeラーニング、3Dアニメがとても成長している」と現状を紹介した。

また、モバイルに関する市場については1年間で70%以上の急成長を遂げていることから、「日本企業が進出しても面白い分野である」と解説した。

韓国のIT産業の現状や日本企業進出の可能性について解説した宋氏。

宋氏は現在、日本に進出したい韓国企業を支援しており、「これからは日本の地方の企業と韓国企業のマッチングを本格化させ、将来的には日韓共同で、巨大市場として有望な中国進出を果たしたい」と期待を込めた。

加賀・能登にも支所開設。すでに100人以上が就職決定

ジョブカフェ石川

写真上能登サテライトは9月30日（木）、JR七尾駅前の「パトリア」4階で開所した。
写真下加賀サテライトは10月3日（日）、小松市の三日市商店街内で開所した。

情報提供や適職診断、カウンセリング、研修、職業紹介といったサービスをワンストップで提供し、若者の就業を支援する「ジョブカフェ石川」が予想を超える人気を集めている。

「ジョブカフェ石川」は今年7月、旧県庁跡地の県広坂庁舎1号館に開設された。ジョブカフェは、経済産業省と厚生労働省の支援を受け、モデル地域として選ばれた15道府県が設置・運営するもので、北陸では石川県だけに開設されている。

9月には七尾市に能登サテライトを、10月には小松市に加賀サテライトを整備し、地域の実情に応じたきめ細かな就業支援を行ってきた。

開設以来、3カ所合わせて1万人超の若者が相談に訪れており、約4,000人が「ジョブサポーター」のカウンセリングを受けた。ジョブサポーターは、就職に関するプロフェッショナルでジョブカフェに常駐し、一人ひとりに合ったサービスメニューや情報を提供する。

ジョブカフェでは、常駐のジョブサポーターが、就職活動の心強い味方になる。

石川県では、ジョブカフェの利用によって、これまで100人以上が就職を決めており、今後も若者の就業を強力にバックアップしていく考えだ。（人数は11月末現在）

中間報告案が発表された10月8日(金)の県産業革新戦略会議。

【プロジェクトの一例】

複数の産業の連携による新産業の創出

「健康・福祉・予防型社会創造産業」
・医薬農工連携
（健康福祉機器の開発、健康サービス産業の創出など）

「農工連携による新たな地域ブランド創造産業」
・1次（食材）＋2次（食品加工・機械）＋3次（サービス業）の各産業が連携
（農業ベンチャー、機能性食品、ブランド食品などを創出）

「地域の文化資産等の発掘・発信による新産業」
・繊維産業とデザイン産業、ITなどの連携
・伝統産業と先端技術の連携

県産業をリードする企業群の育成

「ニッチトップ企業の育成」「ビジネスモデル企業の育成」
・人材育成、知的財産の活用など

県外、海外との連携

「産業誘致の推進」
・県内企業、大学研究者と関連する県外企業の誘致
・県産業の発展を牽引するような企業の誘致

「国際ビジネスの推進」

県内産業の活性化に向け、中長期的な新戦略をまとめる

石川県産業革新戦略（仮称）中間報告

県内産業を活性化させるための新たな10カ年計画を検討している石川県はこのほど、"石川地域経済圏構想"の実現などを掲げた「石川県産業革新戦略（仮称）」の中間報告をまとめた。

県では1995年に地場産業の高度化、新規創業支援の育成などを盛り込んだ「産業高度化10カ年戦略」を立案、産業振興に取り組んできた。しかし、経済環境が大きく変化したことなどを受け、このたび新たな戦略を練ることになった。

昨年11月から、企業経営者や学識経験者で構成する県産業革新戦略会議を設けてヒアリングを重ねたほか、232項目にわたる独自の指標により、県内産業の現状を分析。その上で、新戦略の骨子づくりを進めてきた。

この中で県は、社会インフラや生活環境の優れた地域として石川県を評価する一方、産業間の横断的な連携が弱い、対外的な競争力が低下しているといった理由から、産業の成長が鈍化していると指摘。

その上で、例えば、医療や農業、工業各分野が連携し、新製品開発に取り組むなど、県経済を活性化させるためのプロジェクトを提案（別図）。これによって、新産業・新ビジネスを創出し、他地域からトップレベルの人材や技術、企業を呼び込むと同時に、石川の地域経済ブランドを県外、海外へ発信する"石川地域経済圏構想"を実現したいと考えている。

新戦略はこの後、県内各地でのタウンミーティングや専門家の意見、県民からのパブリックコメントを参考に見直しを進め、来年3月、具体的な事業計画を組み込んだ最終報告としてまとめられる。

みなさんの考えをお聞かせください

パブリックコメント募集中

●Eメールでのご意見はこちら　senryaku@pref.ishikawa.jp

石川県では「石川県産業革新戦略（仮称）」に関する県民の皆様のご意見を広く募集しています。寄せられたご意見につきましては最終報告をとりまとめる際、参考にさせていただきます。

●尚、中間報告、関連資料は下記ホームページからご覧いただけます。
http://www.pref.ishikawa.jp/syoko/

タウンミーティングを開催中

タウンミーティングでは中間報告の概要を説明し、県民から意見を募ります。

FINANCE

経営の安定や積極的な事業展開を
支援する融資・助成制度のご紹介です。

●平成16年度、石川県産業創出支援機構では、以下の貸付・貸与事業を実施しています。

設備資金貸付事業・設備貸与事業・モノづくり等設備貸与事業

(財)石川県産業創出支援機構　企業振興部　TEL **076-267-1140**

	設備資金貸付	設備貸与（割賦・リース）	モノづくり等設備貸与（割賦）
内容	創業・経営基盤の強化に必要な設備資金の1/2以内を長期・無利子で貸付 （中古設備可）	創業・経営基盤の強化に必要な設備をISICOが代わって購入し、長期・低利で貸与（割賦またはリース） （中古設備可）	創業・経営基盤の強化に必要な設備をISICOが代わって購入し、長期・低利で貸与（割賦） （中古設備可） ※ただし、次のいずれかに該当する企業であること ● モノづくり再生支援プログラム対象企業 ● 経営革新支援法等承認企業 ● 地域貢献型企業
貸付限度額	50万円～4,000万円 （特例25万円～6,000万円）	100万円～6,000万円	100万円～6,000万円
利息	無利子	【割賦損料】 年2.75% 実質金利2.00～2.25% 【リース料】 月1.408%（7年） ～3.006%（3年）	【割賦損料】 年2.75% 実質金利2.00～2.25%
期間	7年以内 （うち据置期間半年または1年以内） ※保証人必要。貸付金額1,000万円超の場合、原則として物的担保が必要 ※県の制度金融との併用可能	【割賦】7年以内 （うち据置期間半年または1年以内） ※保証金10%（割賦制度）。原則として保証人のみ 【リース】3～7年 （設備引渡の翌月より、毎月自動振込） 【県の利子補給】 ● IT（情報技術）分 …… 0.75% ● モノづくり再生支援分 …… 0.75% ● 一般分 …… 0.50% ※県のほか、市町村によりさらに利子補給がありますので、当機構へ相談・お問い合せください。	【割賦】 7年以内（うち据置期間半年または1年以内） ※保証金10%（割賦制度）。原則として保証人のみ 【県の利子補給】 ● IT（情報技術）分 …… 0.75% ● モノづくり再生支援分 …… 0.75% ● 一般分 …… 0.50% ※県のほか、市町村によりさらに利子補給がありますので、当機構へ相談・お問い合せください。

●ISICOライブラリのご案内

さまざまな情報が企業経営をサポートします!

ISICOライブラリでは、各種年鑑、便覧、白書、統計、調査報告書、新聞、雑誌や、「人材教育」「販売促進」「繁盛店情報」など、経営に役立つ研修用ビデオを幅広くそろえています。

各種書籍及び研修用ビデオは、自由に閲覧することができ、無料で貸出するサービス（石川県内の方を対象、資料につきましては一部貸出不可）を行っております。

【開設時間】月曜日～金曜日
午前8時30分～午後7時30分
土曜日　午前10時～午後5時

【休館日】　原則として、日曜日・祝祭日・12月29日～1月3日
また、その他都合により閉館することもございますので、ご了承ください。

●詳しくは、ISICO インフォメーションセンターまでお問い合わせください。
TEL 076-267-1001 FAX 076-268-4911
e-mail info@isico.or.jp

●専門家派遣事業のご案内

ISICO経営支援室では、中小企業の経営をサポートする専門家派遣事業を実施しています。創業者や経営の向上を図る中小企業が抱えるさまざまな課題（経営、技術、人材、情報など）に対し、的確な対応と助言で解決を図る専門家を派遣するものです。企業側の負担額は謝礼および必要経費の1/3で、ご希望の専門家を指定することもできます。プロのアドバイザーが豊富な知識とノウハウで経営革新をバックアップします。

●お問い合わせ
(財)石川県産業創出支援機構
経営支援室
TEL **076-267-1244**

INFORMATION TABLE
インフォメーションテーブル

起業・新分野進出のほか、経営や技術の高度化などに役立つ情報を紹介するページです。

SEMINAR　セミナー

日　程 ■ 1/9(日)・26(水)・2/2(水)
テーマ ■ IT活用アカウンティング能力強化セミナー
場　所 ■ 県IT総合人材育成センター
県IT総合人材育成センター ✆076-267-8000

日　程 ■ 1/13(木)～14(金)
テーマ ■ XML入門－XMLの文法とスタイル指定－《XMLによるシステム開発編》
場　所 ■ 県IT総合人材育成センター
県IT総合人材育成センター ✆076-267-8000

日　程 ■ 1月17日（月）
テーマ ■ 中国ビジネスとリスクマネジメント
場　所 ■ 県地場産業振興センター
ジェトロ金沢貿易情報センター ✆076-268-9601

日　程 ■ 1月25日（火）
テーマ ■ 産業大学講座「環境浄化技術の最新動向Ⅶ」
場　所 ■ 県工業試験場
県産業創出支援機構 ✆076-267-8109

日　程 ■ 1/25(火)～26(水)
テーマ ■ Visual Basic.NET　移行技術《Visual Basicによるシステム開発編》
場　所 ■ 県IT総合人材育成センター
県IT総合人材育成センター ✆076-267-8000

日　程 ■ 1月27日（木）
テーマ ■ 産業大学講座「都市緑化の現状と展望」
場　所 ■ 県工業試験場
県産業創出支援機構 ✆076-267-8109

日　程 ■ 1月28日（金）
テーマ ■ WebObjectsセミナー
場　所 ■ 石川ハイテク交流センター
県産業創出支援機構 ISPオフィス
✆0761-51-0122

日　程 ■ 1/29(土)・2/11(金)・2/19(土)
テーマ ■ IT活用
21世紀のビジネス能力開発セミナー
場　所 ■ 県IT総合人材育成センター
県IT総合人材育成センター ✆076-267-8000

日　程 ■ 2月4日（金）
テーマ ■ 産業大学講座「超音波技術の基礎と応用」
場　所 ■ 県工業試験場
県産業創出支援機構 ✆076-267-8109

日　程 ■ 2月9日（水）
テーマ ■ 産業大学講座「人・環境調和型複合材料に期待するもの」
場　所 ■ 県工業試験場
県産業創出支援機構 ✆076-267-8109

さらに詳しい情報・最新情報は、
DGnet↓
http://www.isico.or.jp
をご覧ください。

EVENT　イベント

日　程 ■ 1/19(水)～21(金)
テーマ ■ 第1回国際燃料電池展
場　所 ■ 東京ビッグサイト
FC EXPO～国際燃料電池展～事務局
✆03-3349-8502

日　程 ■ 2/23(水)～25(金)
テーマ ■ nano tech 2005 国際ナノテクノロジー総合展
場　所 ■ 東京ビッグサイト
(株)ICSコンベンションデザイン
✆03-3219-3567

日　程 ■ 3/8(火)～11(金)
テーマ ■ 第33回国際ホテル・レストラン・ショー
場　所 ■ 東京ビッグサイト
(社) 日本能率協会 ✆03-3434-1377

DGnet デジネット活用講座.3

DGnet(デジネット)は、最新情報の収集から、経営や技術に関する相談、産学官のネットワーク形成など、あなたのビジネスをインターネット上で支援します。

みなさんの伝えたい情報をデジネットで発信!!

デジネットウォーカーにぜひご登録下さい！

ご登録いただくと、みなさんが伝えたい情報をデジネットで発信することができます(無料)。

デジネットで情報発信できる分類

●イベントセミナー情報	イベント・セミナーの開催告知情報
●企業・組織情報	企業・組織の概要、事業内容、活動実績、ホームページなどの情報
●人財情報(研究者)	研究者の研究テーマや活動実績
●人財情報(専門家)	専門家の専門分野や活動実績
●ビジネス情報	新製品・新商品情報やビジネスパートナーの募集
●ノウハウ情報	経営や技術に関するノウハウや企業に役立つ豆知識
●研究論文情報	研究論文の照会、論文を掲載したホームページへのリンク

登録された情報は、トップページのISICO NEWSに掲載され、「DGnet News」として約3100名の登録者にメール配信されます。広報ツールとしてぜひご活用下さい!!

財団法人
石川県産業創出支援機構
Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization

●お問い合わせは
TEL:076(267)1001
FAX:076(268)4911
〒920-8203　石川県金沢市鞍月2丁目20番地
石川県地場産業振興センター新館
URL　http://www.isico.or.jp
E-mail　info@isico.or.jp

編集後記

前回も、数多くの企業の皆さまにアンケートのご協力をいただき、誠にありがとうございました。今回の循環型社会の特集は、前回と同様、ISICOとの関わりを織り交ぜながら各企業の奮闘ぶりを紹介します。また、デジネット活用講座につきましても好評連載中です。ぜひビジネスにお役立てください。

［発行月］2004年12月（年4回発行）　［発行所］財団法人　石川県産業創出支援機構　［編集協力］ライターハウス／金沢市問屋町1丁目75番地